４　本道の歴史・文化の魅力を伝える若者を育成する事業

ネイパル深川　ジュニアリーダーコース in 深川

1　事業のねらい

少子高齢化や人口減少といった地域課題の解決に向けて、「農業」に焦点を当て、中学生・高校生に「魅力ある農業」や「農業を基盤とした新たな雇用」の可能性を体感させることで、農業を志す若者を増やし、「地域創生」に寄与するとともに、地域活動に主体的に参画する意欲・態度を身につける。

2　事業の概要

■期日　R４.9.23(金)～24(土)　１泊２日
■対象　中学生、高校生
■人数　10 名
■場所　ネイパル深川

3　プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9/23（金）							受付	開会式	交流自己紹介	研修講座		夕食	コミュニケーショントレーニング	自由入浴		消灯
9/24（土）		朝食	清掃研修準備	視察研修			移動	昼食	ふりかえりまとめ	閉会式						

4　ねらいを達成するための活動の工夫

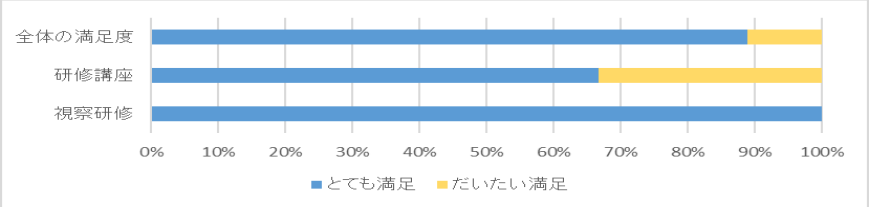
■講座「新十津川町におけるスマート農業の取組」＆白石農園視察
・スマート農業の取組事例とその成果をデータを基に説明を行うとともに、農園視察で実際に機器に触れさせることで学びを確かなものとする。

■地域活動に主体的に参画する意欲・態度を高める『まとめ活動』
・「コラボで描くまちの未来」というテーマを設定し、本研修で学ぶ「農業×先端技術＝地域課題解決」という図式をモデルケースに、自分の住むまちの長所や課題と、様々なアイディアを結びつけ、まちの未来について考える活動を行う。

スマート農業についての講座を受講

農園を視察し説明を受ける参加者

5　事業の評価



■「貴重な話を聞けてよかった」「未来のことを考えられてよかった」「また来たい」など、全体の満足度が高い。
■研修講座については、難しかったという声もあったが、視察研修は満足度が高い。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

〇スマート農業の最先端の事例に触れさせることで、参加者の新たな気づきを促し、農業に対するイメージを変えることがきた。
〇研修の趣旨説明やまとめの活動を丁寧に行うことで、スマート農業の学びに終始せず、地域活動に主体的に参画する意欲・態度を高めるところまで導くことができた。
●参加者の地域に偏りがあり、交流や学びを深めるという点が課題となった。より広範囲からの参加が得られるよう事業の周知・広報に工夫が必要である。

企画のポイント

「コラボで描くまちの未来」をテーマに、様々なアイディアを交流することにより、ねらいの達成度と参加者の満足度を高める。

ネイパル森

道南の縄文文化に直接触れ、当時の生活や世界観を感じる

道南の縄文深掘りツアー

1　事業のねらい

道南における縄文の歴史や文化に触れ、人間の知恵の深さや豊かな感性などに気付くとともに、体験を通して自然との調和を重んじながら生活していくことを感じられるようにする。

2　事業の概要

■期日 R4.11.19(土)～20(日)　1 泊 2 日
■対象 大人　20 名程度
■人数 10 名
■場所 ネイパル森、市立函館博物館、垣ノ島遺跡、大船遺跡

3　プログラム

	13:00	13:15		17:00	18:00	20:00	22:00
11/19（土）	受付	開会式	活動①【市立函館博物館】「博物館深掘りツアー」（常設展示＋バックヤードツアー）	夕食	活動②【ネイパル森】「道南の縄文トークセッション」（講師　市立函館博物館　学芸員　福田　裕二　氏）	入浴 自由時間	就寝

	7:00	8:30		11:45	12:00	
11/20（日）	起床	朝食	活動③【垣ノ島遺跡・大船遺跡】「垣ノ島遺跡・大船遺跡見学」（現地ガイドによる解説）	閉会式	終了	

4　ねらいを達成するための活動の工夫

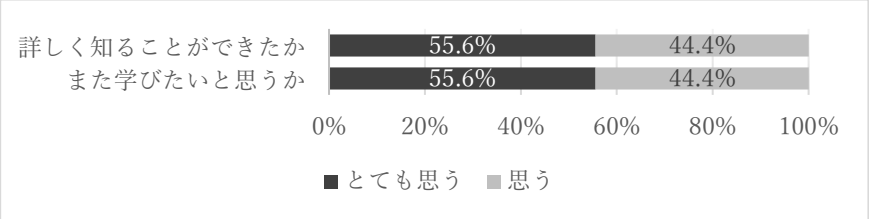
■道南の縄文をより深掘りするためのプログラム構成
・市立函館博物館において、単に展示の解説だけでなく、普段は入ることが出来ない収蔵庫等のバックヤードへ案内してもらい、満足度と高められるよう工夫した。さらにトークセッションでは同館学芸員を講師に招へいし、参加者との対話を通して更なる縄文への理解を促した。

■世界遺産登録された垣ノ島遺跡・大船遺跡の活用
・ネイパル森の立地を最大限に活用し、令和３年度に「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産登録されたうち２つの遺跡に直接足を運び、ガイド解説を受けることで、当時の歴史や精神について詳しく学ぶことができるようにした。

博物館バックヤードツアー

大船遺跡見学

5　事業の評価



■参加者アンケートから、「道南の縄文についてより詳しく知ることができたか」という項目で参加者全員が肯定的な評価をした。
■また博物館や遺跡を訪れたいといった声が多く、参加者の学習意欲の向上に資することができた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●現地訪問だけでなく、講師とのトークセッションや現地ガイドの解説を実施することで、道南における縄文文化や歴史に詳しく触れることができた。
○現地の滞在時間を増やし、参加者が自主的に考えたり、観察したりする時間の設定や、プログラムの充実を図るため、関係団体との連携が必要と考えられる。
○成人を対象とした事業の広報や事業内容について、さらなる工夫が必要である。

企画のポイント

大人の満足度を高めるため、バックヤードツアーやトークセッションを実施。

ネイパル厚岸

体験を通して『秋』の新たな気づきや再発見へ

秋だべさ！

1　事業のねらい

地域におけるその季節にしかできない体験を通して、ふるさとの自然の良さを知り、地元への愛着を深める。

2　事業の概要

■期日 R４.10.29(土)～10.30(日)　１泊２日
■対象 小学３年生～中学３年生、保護者
■人数 30 名
■場所 ネイパル厚岸
■協力 国泰寺、厚岸神社、厚岸町海事記念館

3　プログラム

10/29（土）	13:00	13:30	14:00		17:00	17:30	18:30		19:30	22:00	
	受付	開会式	自己紹介	活動１（ネイパル厚岸）木の実クラフト＆焼きいもを作ろう	休憩	夕食	活動２（ネイパル厚岸）たき火を囲んで語ろう		就寝準備	就寝	
10/30（日）	7:30	8:45	9:00	9:30	11:00	11:30	12:00	12:20			
	起床	朝食	部屋点検	徒歩移動	活動３（国泰寺、厚岸神社）厚岸の歴史を学ぼう	徒歩移動	休憩	発表	閉会式	解散	

4　ねらいを達成するための活動の工夫

■『秋』への新たな視点や再発見ができるように
・「木の実クラフト」では、森の中を歩きながら自然素材を集めたり、散策後に焼きいもを食したりと、創作活動までの過程においても季節や自然をたくさん感じられるように工夫した。
・１日の活動の振り返りを、たき火を囲み和やかな雰囲気の中で行うことで、『秋』への気づきや発見を交流できるようにした。

■歴史や文化から「ふるさと」を考える
・厚岸町の歴史や文化について知るだけでなく、参加者の居住地へ興味を広げられるように、協力施設職員から幅広くお話をいただき、質問や会話する時間を多めに設定した。

厚岸の歴史や文化について学ぶ

たき火を囲み、活動を振り返る

5　事業の評価

■参加者アンケート
事業に参加して楽しかったかを問う項目では、参加者 28 名（子ども）のうち、25 名が「とても楽しかった」、２名が「楽しかった」と回答した。（未回答１名）

保護者からは、
・特別な時間、体験になった
・子どもと一緒に楽しむことができて良かった
・楽しい思い出がたくさんできた
と、肯定的な感想が多く寄せられた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●『秋』や自然、歴史や文化などについて、参加者同士で楽しく交流することで、地域の良さを感じたり考えたりする機会となった。

○「今後どんなことにチャレンジしたいか」などの振り返りをすることで、気づきから学びにつながる行動変容が期待できると考える。

企画のポイント

『秋』の新たな気づきを交流することで、自分の住む地域への興味や自然体験活動につなげる